

大志の学び舎



世田谷区立太子堂小学校

『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 11年間』

10月の目標

人格の完成を目指して
「公共心」

<安全>

- ・乗り物の安全な利用の仕方を考えよう。

<保健>

- ・目を大切にしよう。
- ・姿勢を正しくしよう。

<給食>

- ・よい姿勢でよくかんで食べよう。

<あいさつ>

- ・返事や挨拶をきちんとしよう。

もう少しで幸せなれそうな字「辛」

校長 廣瀬 維謙

秋空が気持ちよく澄み渡る季節となりました。風の爽やかさは、本格的な秋の訪れを感じさせてくれます。秋はスポーツ、読書、芸術など様々なことをするには最適な季節です。子どもたちにとって、豊かな実りの秋になるよう努めてまいります。

さて、詩画作家の星野富弘さんを御存じでしょうか。星野さんは、群馬県の出身。中学校の体育教師として勤めていらっしゃいましたが、着任してすぐにクラブ活動（器械体操）の指導中の墜落事故により、首から下の身体機能を失い、手足を動かすことができないという大きな試練に見舞われてしまいました。

その後、入院中に見舞いにもらう手紙への返事を書きたくて、口に筆をくわえて文字を書く練習するところから始まり、次第に絵を創作し、その絵に詩をつづることで「詩画」という独自の表現で作品を創り出して、多くの人々の心に希望と優しさを届けてこられました。そこには、困難を抱えながらも「生きることを見つめ続けた人」のまなざしと静かで力強い言葉があります。星野さんを御存じであれば、作品に勇気付けられたことのある方はたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

その星野さんは、令和6年4月に78歳で御逝去されました。星野さんの詩に、次のような言葉があります。

「幸せという花があるとすれば、その花の蕾（つぼみ）のようなものだろうか。辛いという字がある。もう少しで幸せになれるような字である。」

「辛さ」は決して無駄ではなく、「幸せな蕾」にもなり得るのだという気づきです。ほんの少しの見方の違いが、心を前向きにしてくれます。

私たち大人は、子育てや仕事、日々の暮らしの中で「辛い」と感じる事が多くあります。けれども、そんなときこそ「生きている」という日々の尊さに気付ける瞬間ではないのでしょうか。そして、子どもたちもまた、悩みや迷いを経験しながら、やがてその中に「幸せの蕾」を見つけていくでしょう。子どもたちが、学校生活や友達関係の中で経験する「辛さ」も、いつか花を咲かせ、実りへとつながっていくのだと思います。

星野さんの詩や生き方は、私たちに大人にも、大切な気づきを与えてくれます。困難な中でも人を思いやり、感謝を忘れず、静かに希望を書き続ける姿に、人生の豊かさとは何かを改めて考えさせてくれます。

子どもたちは、これから生活していく中で、うまくいくことがあれば、思うようにいかないことや悔しい思いをすることがあります。だからこそ私たち大人が、子どもたちの「蕾」を温かく見守り、励ましていくことが大切だと考えます。

今月も、どうぞよろしくお願いします。



〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03 (3413) 4621

FAX 03 (3413) 4799

Email: dai004@setagaya.ed.jp